

戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)
次世代海洋資源調査技術推進委員会(第8回)
議事要旨

1. 日 時：平成28年3月25日(金) 15:00-17:00
2. 場 所：中央合同庁舎4号館12階 共用1208特別会議室
3. 出席者：(敬称略)

(総合科学技術・イノベーション会議)

- | | | |
|----------|--------|---|
| (議長) | 久間 和生 | 常勤議員、SIP ガバニングボード議長 |
| (SubPD) | 浦辺 徹郎 | プログラムディレクター(PD) |
| | 浦 環 | 九州工業大学社会ロボット具現化センター センター長 特別教授 |
| | 辻本 崇史 | (独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構 理事 |
| | 堀田 平 | 国立研究開発法人海洋研究開発機構 理事 |
| (関係省庁) | 水元 伸一 | 総合海洋政策本部事務局 内閣参事官(代理出席) |
| | 林 孝浩 | 文部科学省研究開発局海洋地球課 課長 |
| | 萩原 崇弘 | 経済産業省 資源エネルギー庁 資源・燃料部鉱物資源課 課長 |
| | 山内 智生 | 総務省情報通信国際戦略局 宇宙通信政策課 課長 |
| | 河野 順 | 国土交通省海事局海洋・環境政策課技術企画室 室長 |
| | 小谷野 喜二 | 国土交通省港湾局海洋・環境課 課長 |
| (実施機関) | 太田 志津子 | 環境省総合環境政策局総務課環境研究技術室 室長 |
| | 木川 栄一 | 国立研究開発法人海洋研究開発機構 次世代海洋資源調査技術研究開発PT プロジェクト長 |
| | 磯崎 芳男 | 国立研究開発法人海洋研究開発機構 海洋工学センター センター長 |
| | 池原 研 | 国立研究開発法人産業技術総合研究所 地質調査総合センター研究戦略部 研究企画室 首席研究員 |
| | 矢野 博之 | 国立研究開発法人情報通信研究機構 ワイヤレスネットワーク研究所 所長 |
| | 田村 兼吉 | 国立研究開発法人海上技術安全研究所 研究統括主幹 |
| | 山本 浩 | 国立研究開発法人港湾空港技術研究所 理事 |
| | 河地 正伸 | 国立研究開発法人国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター 生物資源保存研究推進室 室長 |
| (アドバイザー) | 浅田 昭 | 東京大学 生産技術研究所海洋探査システム連携研究センター長 教授 |
| | 竹内 俱佳 | 電気通信大学 名誉教授 |
| | 林 謙一郎 | 筑波大学大学院 生命環境科学研究科 地球進化科学専攻 教授 |
| | 巻 俊宏 | 東京大学生産技術研究所 海中工学国際研究センター 教授 |

(オブザーバー)

文部科学省、経済産業省、総務省、国土交通省・海事局、国土交通省・港湾局、環境省、内閣官房総合海洋政策本部事務局、(独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構、国立研究開発法人海洋研究開発機構、国立研究開発法人産業技術

総合研究所、国立研究開発法人情報通信研究機構、国立研究開発法人海上技術安全研究所、国立研究開発法人港湾空港技術研究所、国立研究開発法人国立環境研究所、(一社)海洋調査協会、次世代海洋資源調査技術研究組合

4. 議事【非公開】

- (1) GB評価を受けた出口戦略と研究計画の方向性について
- (2) 平成28年度実施計画について
 - ・実施項目1 海洋資源の成因に関する科学的研究 (JAMSTEC、産総研)
 - ・実施項目2 ①海洋資源調査システム・運用手法の開発 (J-MARES)
 - ・実施項目2 ②AUV複数運用手法等の技術開発 (海技研)
 - ・実施項目2 ③ROVによる高効率海中システムの開発 (港空研)
 - ・実施項目3 ①海洋生態系観測と変動予測手法の開発 (JAMSTEC、国環研)
- (3) 戦略策定タスクフォース中間報告
- (4) 環境影響評価に関する国際標準化タスクフォースの設置について
- (5) その他

5. 配付資料

- 資料1-1 SIP「次世代海洋資源調査技術」の出口戦略について【非公開】
- 資料1-2 平成28年度研究計画の方向性について【非公開】
- 資料2-1 実施項目1 海洋資源の成因に関する科学的研究 (JAMSTEC、産総研)【非公開】
- 資料2-2 実施項目2 ①海洋資源調査システム・運用手法の開発 (J-MARES)【非公開】
- 資料2-3 実施項目2 ②AUV複数運用手法等の技術開発 (海技研)【非公開】
- 資料2-4 実施項目2 ③ROVによる高効率海中システムの開発 (港空研)【非公開】
- 資料2-5 実施項目3 ①海洋生態系観測と変動予測手法の開発 (JAMSTEC、国環研)【非公開】
- 資料3-1 戦略策定タスクフォース中間報告【非公開】
- 資料4-1 標準化検討タスクフォースの設置について【非公開】
- 参考資料1 SIP次世代海洋資源調査技術 推進委員会 構成員名簿
- 参考資料2 SIP次世代海洋資源調査技術 推進委員会 (第7回) 議事要旨
- 参考資料3 次世代海洋資源調査技術研究開発計画 (最新版)【非公開】
- 参考資料4 GB課題評価及び予算配分のポイント【非公開】
- 参考資料5 各実施項目研究概要及び平成28年度計画概要【非公開】
- 参考資料6 年間スケジュール【非公開】

6. 議事要旨

議事に先立ち、浦辺 PD から挨拶があった。

- ・ガバニングボードでの評価を受けてユーザー、研究者、技術者および民間企業等と研究開発の内容等をよく相談した。
- ・民間企業も含めた多くの意見を聞いて、新しい体制を構築した。それに合わせて重点項目を設定した新たな計画を作ることができた。

続いて、久間議員から挨拶があった。

- ・次世代海洋資源調査技術は SIP11 課題の中で最も大きな予算を使っている。残り 3 年で浦辺 PD には着実な成果をあげてほしい。
- ・平成 27 年度のガバニングボードにおける評価は、実施の意義は高いが出口への取り組みが不十分という見解だった。参画している機関の研究開発は成果を出しているが、SIP の目的は産業化やグローバルスタンダードの創出であるため、今後は PD を中心に出口に向けた取り組みを強化して欲しい。
- ・SIP に採択されたということは必ず結果を出すことである、という認識を末端の研究者まで浸透させてほしい。

(1) GB 評価を受けた出口戦略と研究計画の方向性について【非公開】

資料1-1および資料1-2に基づき、浦辺 PD から説明があった。

(2) 平成 28 年度実施計画について【非公開】

- 1) 実施項目 1 海洋資源の成因に関する科学的研究 (JAMSTEC)
資料2-1に基づき、JAMSTEC 鈴木オブザーバーから説明があった。
- 2) 実施項目 2 ①海洋資源調査システム・運用手法の開発 (J-MARES)
資料2-2に基づき、J-MARES 河合オブザーバーから説明があった。
- 3) 実施項目 2 ②AUV 複数運用手法等の技術開発 (海技研)
資料2-3に基づき海上技術安全研究所 田村委員より説明があった。
- 4) 実施項目 2 ③ROV による高効率海中作業システムの開発 (港空研)
資料2-4に基づき港湾空港技術研究所 松本オブザーバーから説明があった。
- 5) 実施項目 3 ①海洋生態系観測と変動予測手法の開発 (JAMSTEC、国環研)
資料2-5に基づき JAMSTEC 山本オブザーバーから説明があった。

報告終了後、浦辺 PD から計画の進め方詳細については PD に一任して欲しい旨意見があり、了承された。

(3) 戦略策定タスクフォース中間報告【非公開】

資料3-1に基づき事務局から報告があった。

(4) 環境影響評価に関する国際標準化タスクフォースの設置について【非公開】

資料4-1に基づき事務局から説明があった。

最後に、浦辺 PD の挨拶により、閉会した。

以上